

認可を設立組合きょう

123メートルの超高層ビル計画

六本木1丁目南地区再開発

六本木1丁目南地区市街地再開発事業の組合設立がきょう10日、東京都から認可を受ける。再開発事業では土地の有効利用を図るため、地上28階建て高さ約123メートルの超高層ビルの建設を計画しており、今後、08年4月の権利変換計画認可を経て、08年10月に本体工事を着手する見込み。完成は11年5月を目指す。

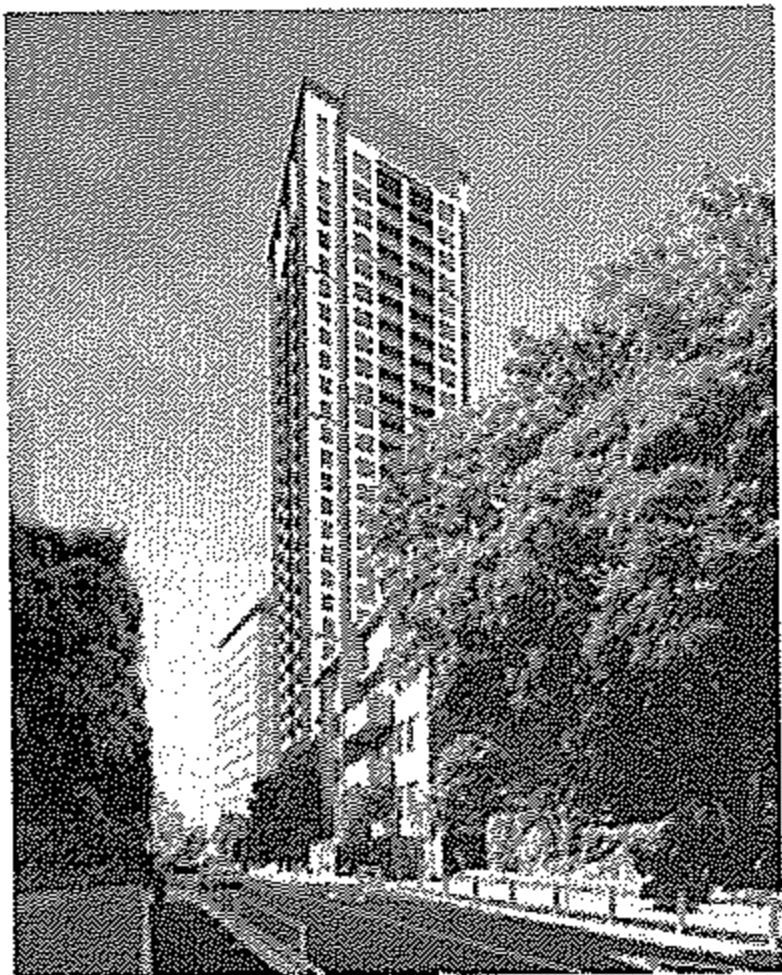
六本木1丁目南地区第一種市街地再開発事業の計画地は、港区六本木1丁目各地、施行面積は約0・4ヘクタール。泉ガーデンタワーと東側の街路に囲まれた一画に位置し、付近には六本木ファーストビル、スウェーデン大使館などが立地する。地権者は、日総ビルディング(港区、大西紀男代表取締役社長)、麻布ハウスを含む8者。コンサルタントは日本設計とティー・オー・エム計画事務所、事業協力者及び参加組合員予定者は日総ビルディング。設計は日本設計及びミサワエンジニアが担当。

現在、計画地は一部が

細分化しているため、土地の有効利用と高度利用が図られていない。こうした現状を受け、同組合では住宅や生活利便施設等で構成する施設を建設する。敷地面積は約3200平方メートルで、施設規模はRC造地下3階地上28階塔屋1階建て延べ約3万5500平方メートル。このうち、地下1階と3階部分を駐車場、地上1と2階に生活利便施設を整備。3階と28階には住宅スペースを配置する予定だ。住戸数は191戸程度としている。総事業費は約157億円を見込んでいる。

線道路の拡幅、広場(面積約150平方メートル)の新設などを行い地域への貢献を図る。

再開発事業は、麻布ハウスが老朽施設の更新に端を発し、日総ビルディングらに呼びかけを行ったもの。03年10月に準備組合(静永純一理事長)を設立し、昨年1月には区から再開発事業の都市計画決定を受けた。

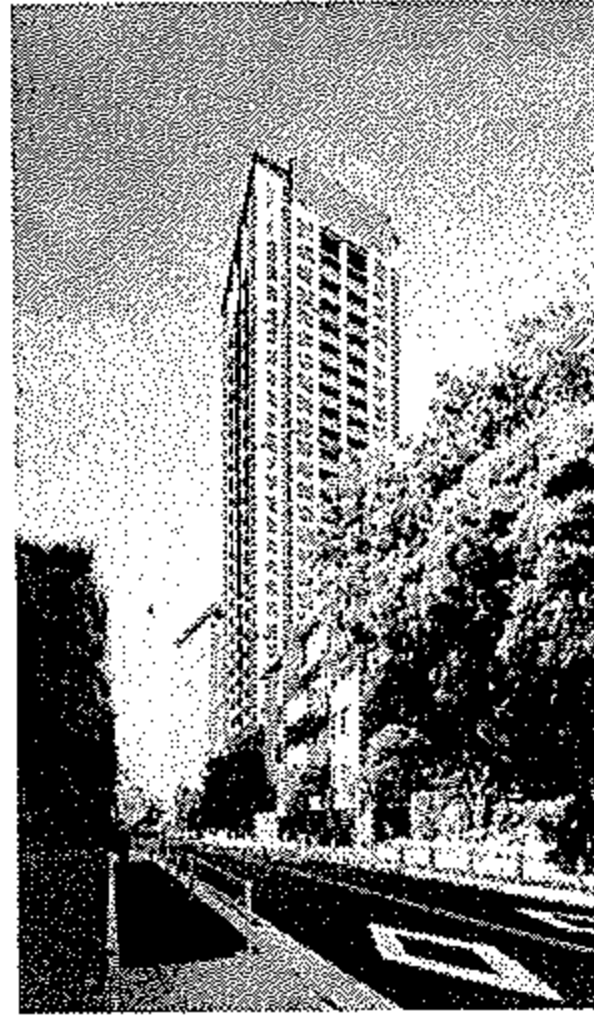


完成予想図

=都=

六本木一丁目南地区再開発

きょう組設立認可



再開発ビル完成予想図

東京都はきょう10日、六本木一丁目南地区市街地再開発の組合設立を認可する。住宅191戸などを設けた延べ約3万5500平方メートルの再開発ビルを建設する計画で、事業費として157億円を投入する。着工は2008年10月を予定。

再開発事業の施行区域は六本木一丁目地内、地下鉄南北線六本木一丁目

駅東側の敷地約0・4畝。区域内に老朽化したマンションがあることや、幹線道路に面しているにもかかわらず歩道が未整備であることから、土地所有者による再開発の検討が進んでいた。

再開発ビルは地下3階地上28階建て延べ3万5500平方メートルの規模で建設する。高さは123メートル。住宅191戸を中心に、

生活利便施設、駐車場などを配置する。

08年4月に権利交換計画の認可を受けて同年10月に着工、11年5月までに工事を完了する見通しだ。

設計は日本設計（新宿区）とミサワフロンティア（中央区）が担当。事業協力者として日総ビルディング（港区）が参画している。

六本木一丁目 南地区再開発

都が事業計画を認可

11年5月
完成 08年10月に着工へ

東京都は、港区で計画されている「六本木一丁目南地区第一種市街地再開発事業」の事業計画を10日付で認可する。事業を推進する六本木一丁目

南地区市街地再開発準備組合(静永純一理事長)も同日付で本組合の設立認可を取得する。本組合は、08年4月に権利交換計画

5。地下鉄南北線六本木一丁目駅の東側約100坪に位置する二画で、施行面積は約0.4畝。再開発ビルは、地下3階地上

28階建て延べ3万5500平方坪、高さ約123.3mの超高層マンション(191戸)となる。低層部には生活便利施設や駐車場なども整備する。総事業費は約157億円。

コンサルタント業務は日本設計が担当。事業協力者として日総ビルディング(東京都港区)が参画している。



再開発ビルの完成予想



完成予想

六本木一丁目
南再開発

きょうつ組合設立認可

3.5万²m共住、来秋着工

東京都は10日、六本木一丁目南地区市街地再開発準備組合の設立を認可

東京都は10日、六本木一丁目南地区市街地再開発準備組合(港区、木一丁目西A5街区市街地再開発準備組合(港区、

静永純一理事長)は、本設計が担当している。規模は、RC造地下3階地上28階建て延べ3万5500平方メートル。住戸数は191戸を計画している。地下に駐車場、低層部に店舗などの生活利便施設を配置する予定だ。総事業費は157億円を見込む。

本設計が担当している。規模は、RC造地下3階地上28階建て延べ3万5500平方メートル。住戸数は191戸を計画している。地下に駐車場、低層部に店舗などの生活利便施設を配置する予定だ。総事業費は157億円を見込む。

本設計が担当している。規模は、RC造地下3階地上28階建て延べ3万5500平方メートル。住戸数は191戸を計画している。地下に駐車場、低層部に店舗などの生活利便施設を配置する予定だ。総事業費は157億円を見込む。

木一丁目南地区の敷地約4000平方メートル。

六本木一丁目の再開発事業 市街地再開発組合設立

日総ビルディング

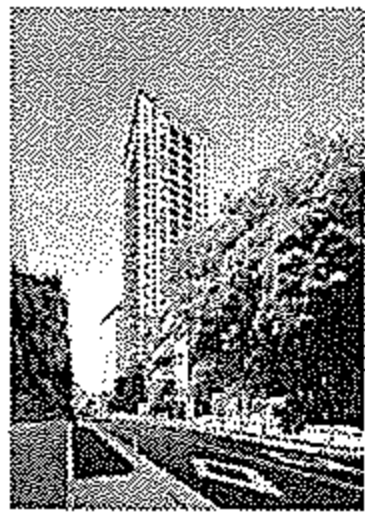
日総ビルディングは、このほど、東京都より都市再開発法第11条第1項の規定に基づき認可を受け、地権者などと構成する「六本木一丁目南地区市街地再開発組合」を設立した。

今回の組合設立により、「六本木一丁目南地区市街地再開発組合」が法人格を得て、市街地再開発事業の施行者となり、この地区の課題である「土地の有効利用および高度利用」「老朽化した

建築物の防災対策」「交通量に反して未整備な歩行者環境の確保」といった問題解決を総合的に整備することが可能になった。

事業の名称は「六本木一丁目南地区第一種市街地再開発事業」。

総事業費約17億円、地



完成予想図CG

上28階・地下3階(191戸の住宅など)の高層建築物の建設を予定しており、最終的な竣工は平成23年5月を予定。

六本木一丁目エリアは、旧東伏見宮邸、旧吉田首相邸・旧住友邸・旧大倉邸などが建ち並ぶ由緒ある屋敷街であり、さらにアメリカ大使館をはじめ各国の大使館も建ち並び、国際性が融合したエリア。さらに近年では2002年の泉ガーデン、2006年の虎ノ門タワーズなど再開発が活発化しており、同再開発事業を含め六本木一丁目エリア全体が新たに生まれ変わることが予想されている。